第22回学術総会/ワークショップ 1

J-START から見える乳房超音波検診の未来像

マンモグラフィ (MG) と超音波 (US) の同時併用検診により
MG の要精査率は減らせるか*

——MG と US の同時併用検診の勧め

財団法人筑波メディカルセンター

東野英利子 梅本 剛 佐々木京子 森島 勇
植野 映 内藤 隆志 小野 幸雄

要旨：マンモグラフィ (MG) 検診に超音波 (US) 検査を併用すると要精査率が高くなるが、総合判定を行うことで、MG 検診の要精査率を減らせる可能性がある。【方法】2011年4月1日～2012年3月31日につくば総合健診センターで MG 単独検診を受け、要精査となった受診者のうち、筑波メディカルセンター病院を受診し、精査時に US 検査のみが施行され、病変なしあるいは良性と判定された率を調べた。【結果】検診受診者数は11,753名、検診の内訳は、MG 単独検診4,529名、MG・US 同時併用検診974名、US 単独検診6,250名であった。MG 単独検診、MG・US 同時併用検診で、MMG の要精査率はそれぞれ4.9%、2.6%、がん検出率は0.22%、0.31%、陽性予知度は4.5%、12.0%であった。MG 単独検診で要精査となった受診者のうち187名は、筑波メディカルセンター病院にて、検診時 MG を参照のうえ、精密検査を受けた。このうち、US 検査のみが施行され、病変なしと判定されたのは56名 (30%)、良性病変が検出されたが経過観察不要と判定されたのは68名 (36%) であった。【結論】MG 検診に US 検査を併用し、総合判定を行うと、MG 検診の要精査率を1/3から2/3減らせる可能性がある。

*本演題は、発表直後に他誌に投稿されておりましたため、本誌では抄録のみ掲載させていただきました (Tohno E, Umemoto T, Sasaki K, et al: Effect of adding screening ultrasonography to screening mammography on patient recall and cancer detection rates: A retrospective study in Japan. Eur J Radiol, 82 : 1227-1230, 2013)。総合討論でのご発言はそのまま掲載しております。

——編集室より